

4月にサントリー社と九州阿蘇・熊本エリアにおける水源涵養・森林保全、そしてその地の天然水でつくるビール工場へ研修・見学へ行ってきました。

この研修は、サントリー社のコーポレートメッセージ「水と生きる」について、「なぜその考えに至ったのか」「どのように実行しているのか」を実際に体感する研修でした。

サントリー社は「水を育む活動」を慈善事業ではなく基幹事業と位置づけ、全国各地の約12,000 ㍴に及ぶ「サントリー 天然水の森」で森林保全活動を行っています。

九州・熊本においても、地域に根ざした保全活動を継続的に実践しており、その真摯な姿勢に深い感銘を受けました。

研修では、

- ・なぜ森林整備が重要なのか
- ・なぜサントリーが森林整備に取り組むのか
- ・それが将来どのような形で環境に還元されるのか

を実地で見学させていただきました。

### 水源涵養の取り組み

ふかふかの土の実験や水の浸透実験を通じ、生物多様性に富んだ森づくりの工程を体感しました。まず人が森に道を入れ、適度な伐採を行い、光が地面に届く環境をつくることで下草を育てます。それにより水が地中に蓄えられ、(注①)水源涵養につながるという、気の遠くなるような長期的な取り組みが行われていました。

また、「天然水の森」での整備活動に加え、(注②)「冬水田んぼ」の仕組みを活用し、11月から翌年3月までの5か月間で約200万トンもの水を涵養している点は大きな驚きでした。

注①涵養：水が自然にしみ込むように、無理なく徐々に養い育てる事

注②冬水田んぼ：稲作の収穫が終わった時期に田んぼへ川の水を入れる事で田んぼに栄養を入れる事ができる事、また、田んぼへ引いた水が天然水・地下水に繋がる水とする事

## サントリー九州熊本工場の見学

こうした何十年先の環境を見据えた取り組みを、慈善事業ではなく基幹事業として実行しているサントリー社の姿勢を学び、その後、九州熊本ビール工場にも見学させていただきました。

見学後にいただいた、できたての「ザ・プレミアム・モルツ」はまさに「うまい!」の一言。美味しい天然水を用い、ビールは機械的につくるものではなく、人と自然が響き合いながら丁寧に製造しているという熱い説明も印象的でした。

## 環境貢献の取り組み

ダイレックスは現在、全国に439店舗(4月24日時点)を展開しています。

私たちも地域の皆さまへ、商売による貢献だけでなく、お客様が暮らす環境にも少しでも貢献できるよう、6月よりサントリービール1本のご購入につき1円を、水を育む活動に取り組む3団体へ寄付する企画を実施いたします。

ダイレックスへのご来店お待ちしております。